

愛知「提言」で経済懇談会 佐々木議員が説明

党愛知県委員会は9日、各界との経済懇談会を開き、佐々木憲昭衆院議員が消費税に頼らない社会保障の充実と財政危機打開を示した党の「提言」について報告しました。

中小企業、医療・福祉関係者や学者ら約110人が参加しました。県委員会は県森林組合、県漁連や名古屋建設業協会、名古屋市医師会、JA名古屋、名古屋商店街振興組合連合会など県内1600団体に郵送や訪問で案内しました。



河江明美衆院比例東海ブロック候補が党県委員会の

「愛知経済の内需拡大プラン大綱」案を説明しました。

県保険医協会の板津慶幸副理事長は「医療費に消費税は課せられないが、薬剤や検査機器の購入には消費税がかかっている。(増税で)検査機器が買えないと患者の命にかかわる」と発言。

反貧困ネットワークあいちの水悦子さんは「生活保護は最後のセーフティネットとして憲法に保障された権利。『提言』にふりがなをつけたりイラストを多くして読みやすくしてほしい」と要望しました。

春日井市農業委員の川地隆正さんは「農家の9割は家族経営の小規模兼業農家で『提言』は大きな農家も小さな農家も日本を支えているという視点が良い」と感想を述べました。

県労働者学習協議会の吉田豊会長は「雇用など若者が希望が持てる提案で感謝します。共産党の財源策は庶民の味方です」と発言。

日本福祉大学名誉教授の大木一訓さんは「第1、第2と段階を踏んで現実的な提起をしたのがいい。内需拡大のために大企業の埋蔵金(内部留保)を還元させる提案は心強い」と発言しました。

岐阜・日本経済の前途を考える懇談会
6月17日(日)午後2時から
長良川スポーツプラザ・大会議室
報告者 佐々木憲昭衆議院議員

支部と行動し、目標達成へ 静岡・三島 金子市議

【「全活」後ただちに成果】

静岡・三島市の金子正毅市議は、5月の全国活動者会議でよびかけられた「特別期間」について、「目標は『やれるか、やれないか』ではなく、やりきらなければ総選挙の勝利の保障はない」との提起に、「目標の総達成なしに、総選挙で勝てない。党中央の並々ならぬ決意を感じた」と、全活後、支部とともに5人の読者を増やし、5月全体で12人の読者を増やして毎月読者10人以上という自らの目標を3カ月連続して達成、6月も読者を増やしています。

【活動を自己分析】

金子市議は3月に、「総選挙勝利のための『大運動』になっているのか」「このままで日本共産党

創立90周年を迎えてよいのか」

「活動の改善をしよう」と自己分析し、「支部と協力して毎月10人以上の読者を増やす」と決意しました。

【支部の活動を援助】

金子市議はいつも支部と活動するようにしています。活動が積極的な支部には、金子市議が声をかけ、ともに行動して必ず成果をあげるようにしています。そのために、自ら購読対象者の名前を手帳に書き込んで活用。6つの支部と行動する中で全支部が成果をあげています。また、支部の「集い」の開催を援助し、「提言」を使って消費税問題や市民の身近な要求で対話を深め、党員を迎えています。

「提言」パンフで対話すると、「こんな政治ではだめ」「大金持ち減税には驚いた」「消費税はほんとに困る」などの声が出される一方、「誰がやっても同じ」などの声が出されます。こうした人には、党が真の改革の対案を持っていることなどを説明し、党支持と「しんぶん赤旗」の購読を呼び掛けます。

【目標達成へ】

金子市議は「目標達成は容易ではありません。6月議会も始まります。しかし、目標達成のために、全活の内容をすべての党員に伝え、毎日の時間をやりくりして支部と行動を計画し、達成したい」と述べています。
(議員FAXニュースより編集)